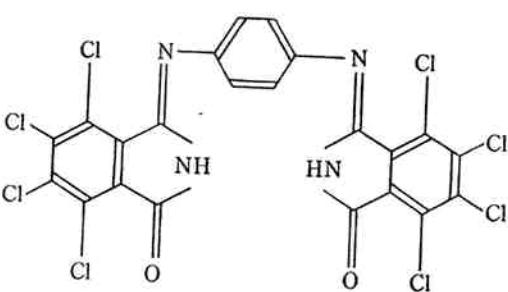

付

特許・実用新案登録一覧

—昭和58年度—

<日本特許> 75件

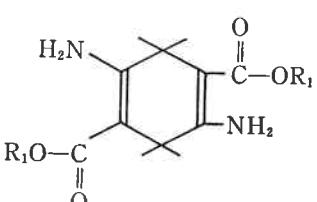
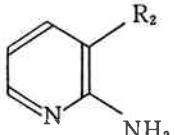
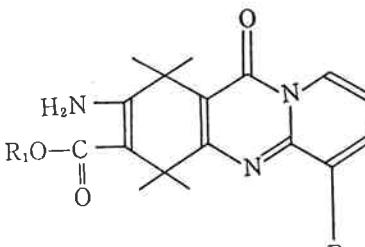
N <small>o</small>	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	49-73404 (49. 6.28)	57-23690 (57. 5.20)	1129978 (58. 1.17)	流動式連続気相重合装置 (永野 峰雄, 栗澤 茂)	反応室の内部に冷却管群を、底部に目皿板を設置し、かつ連続仕込および連続取出し装置を設置した塩化ビニルの重合または共重合用流動式連続気相重合装置。
2	53-82959 (53. 7.10)	57-21535 (57. 5.8)	1130029 (58. 1.17)	黄色顔料の製造法 (藤井 修, 高野 操, 魚谷 武, 岩本 英次)	構造式 
3	50-54736 (50. 5.12)	57-2644 (57. 1.18)	1132036 (58. 1.27)	活性炭の再生方法 (宮之原 熱, 松岡 亨)	で表わされるビスー(4・5・6・7-テトラクロリソインドリン-1-オン-3-イリデン)-フェニレンジアミン(1・4)顔料で、且つ、X線回折図において、回折角度(2θ)、約9.7°及び、約25.2°の2個の強い回折ピークと約26.2°、約27.1°及び、約30.1°の3個の弱い回折ピークで特徴づけられる黄色顔料の製造法において、ビスー(4・5・6・7-テトラクロリソインドリン-1-オン-3-イリデン)-フェニレンジアミン(1・4)のカリ塩を水で加水分解することを特徴とする方法。
4	49-60309 (49. 5.30)	57-27845 (57. 6.12)	1133204 (58. 1.27)	活性炭の再生方法 (川上 登, 伊藤富士隆, 天満 覚, 加藤 徹)	パラジイソプロピルベンゼンジハイドロペオキサイドの酸分解により得られたハイドロキノンの脱色に使用した活性炭を、アセトンと、ベンゼンの混合溶剤に接触した後、該活性炭から該混合溶剤を揮散分離せしめることを特徴とする活性炭の再生方法。
5	52-66247 (52. 6. 7)	57-25022 (57. 5.27)	1133240 (58. 1.27)	酸化クロムの製造法 (伊藤 幹雄, 木原 啓一, 柳原 忠久)	塩化クロムまたは塩化クロム水溶液を酸化性炎に接触させてばい焼することを特徴とする酸化クロムの製造法。
				4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩の製造法	4-ニトロソジフェニルアミンから4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩を製造するにあたり、N-ニトロソジフェニルアミンの塩化水素処理により得られる粗4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩を含む反応液にメタノール、エタノール、ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホキシド、n-ブチルアミンのうち少なくとも一種以上の溶

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					媒および水を加えて4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩を析出せしめ、その後これを分離することを特徴とする4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩の製造法。
6	52-66248 57-25023 1133241 (52. 6. 7) (57. 5. 27) (58. 1. 27) (伊藤 幹雄, 木原 啓一, 柳原 忠久)	4-ニトロソジフェニルアミンの製造法			4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩から4-ニトロソジフェニルアミンを製造するにあたり、4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩をメタノール、エタノール、ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホクシド、n-ブチルアミンのうち、少なくとも一種類以上の溶媒中でアルカリに接触させることを特徴とする4-ニトロソジフェニルアミンの製造法。
7	52-139416 57-26818 1133294 (52. 11. 22) (57. 6. 7) (58. 1. 27) (清田 徹, 清水 明彦, 加藤 芳男, 橋本 勉)	クロマトグラフィー用担体の製造方法			多孔性シリカビーズに下記一般式で示される $(R)_3Si(CH_2)_nO-CH_2-CH-CH_2$ $\quad \quad \quad $ $\quad \quad \quad O$ (R=OCH ₃ , OC ₂ H ₅ , n=2~3) る化合物を反応させて得たシラノ基およびエポキシ基を含む多孔性ゲルに核酸塩基および/またはその関連化合物を、溶媒中で炭酸塩の存在下で反応させることを特徴とするクロマトグラフィー用担体の製造方法。
8	50-129840 57-11717 1134149 (50. 10. 30) (57. 3. 5) (58. 2. 14) (宮之原 獻)	アンモニア性窒素含有廃水の処理法			廃水中のアンモニア性窒素を硝化菌を使用して硝酸性あるいは亜硝酸性窒素に変換するいわゆる生物硝化反応に際し、水酸化マグネシウムまたは酸化マグネシウムを存在させることを特徴とするアンモニア性窒素含有廃水の処理法。
9	47-91597 55-21016 1135387 (47. 9. 12) (55. 6. 6) (58. 2. 14) (柳原 忠久, 深堀健太郎)	クメンボトムからジイソプロピルベンゼンを回収する方法			ベンゼンおよびプロピレンからクメンを製造する際に副生するクメンボトムないしはその処理物からm-および/またはp-ジイソプロピルベンゼンを蒸溜回収する方法においてクメンボトムないしはその処理物にプロピレンを存在させかまたはこれにさらにベンゼン、クメン、m-ジイソプロピルベンゼン、p-ジイソプロピルベンゼンおよびトリイソプロピルベンゼンの中から選ばれる少なくとも一つをさらに存在させてアルキル化触媒により処理する工程を行うことを特徴とするクメンボトムからm-および/またはp-ジイソプロピルベンゼンを回収する方法。
10	52-48380 57-21265 1135914 (52. 4. 28) (57. 5. 6) (58. 2. 28) (松下 駿, 生重 哲男)	ペプチド類の分離方法			架橋硬質デンプンゲルを充填した充填塔にペプチド類を含む溶液および溶離液を通じることによりペプチド類および/または他の共存成分を同時あるいは各別に分離することを特徴とするペプチド類の分離方法。
11	52-80483 57-28404 1135917 (52. 7. 7) (57. 6. 16) (58. 2. 28) (鈴木 祐二)	プロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造法			(1)ポリプロピレン粉末の存在下に、四塩化チタンを有機アルミニウム化合物で還元し、(2)得られた固体をエーテル類で処理し、(3)かく得られた固体を四塩化チタンで処理することを特徴とする、プロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
12	52-80484 (52. 7. 7)	57-28405 (57. 6.16)	1135918 (58. 2.28)	プロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造方法 (鈴木 祐二)	四塩化チタンを、脂肪族炭化水素、ポリプロピレン粉末およびエーテル類の存在下に、有機アルミニウム化合物で還元し、得られた三塩化チタンとポリプロピレンを含有する固体物質を40～80°Cの温度で四塩化チタンで処理することを特徴とするプロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造方法。
13	52-7278 (52. 1.28)	57-29417 (57. 6.22)	1137421 (58. 2.28)	二酸化マンガンの製造法 (溝部 育、杉森 正敏、毛利 隆)	酸素を含む雰囲気中で焙焼した天然二酸化マンガンを熱硝酸又は硝酸と硝酸以外の鉱酸との熱混合物および次亜塩素酸塩で処理することを特徴とする二酸化マンガンの製造法。
14	48-89660 (48. 8.11)	57-30845 (57. 7. 1)	1138255 (58. 3.11)	塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法 (永野 峰雄、鈴木 光明、斎藤 道夫、小坂勇次郎、植村 勝、鈴木 祐二)	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下でこれと塩化ビニルを重合させてエチレン-酢酸ビニル共重合体を1～20重量%含む塩化ビニルグラフト共重合体を製造するにあたり、エチレン-酢酸ビニル共重合体としてのメルトイソデックスが0.1～200で、酢酸ビニルの含有量が10～50重量%であって、かつそのメルトイソデックスおよび酢酸ビニル含有量がそれぞれ異なる二種以上のエチレン-酢酸ビニル共重合体と塩化ビニルとを重合させることを特徴とする塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法。
15	47-35952 (47. 4.10)	57-13812 (57. 3.19)	1138503 (58. 3.11)	屈折率濃度計 (崎山 和孝、橋本 勉)	液体クロマトグラフィー用屈折率濃度計において、熱伝導性箔膜を介して、その両側面に長手方向に切り込みを有するガスケットを二つの膜状平行流路を構成するよう2個の金属ブロックで挟持させ、該金属ブロックにはそれぞれの一端において流液を取り入れる導入管を前記ガスケットの切り込みの一端に接続する穿孔を設け、かつその他端において該金属ブロックに密着している測定セルの一端と前記ガスケットの切り込みの他端を流通さす穿孔及び測定セルの他端と金属ブロックに設けられた排出導管を接続する穿孔をそれぞれ設け、被検溶液と基準溶液の二つの層状流路を近接して形成したことを特徴とする屈折率濃度計。
16	47-94159 (47. 9.21)	57-25524 (57. 5.29)	1139719 (58. 3.24)	異性化方法 (ピーター・ジョン・ニコラス・ブラウン)	3・4-ジクロロブテン-1または1・4-ジクロロブテン-2を異性化する方法において異性化触媒として少なくとも1種以上の銅塩および一般式R-S-R'（ここでR, R'はアルキル、アリールまたはアルカリール基、また同素環または複素環でもよい）で示される有機硫黄化合物を用いることを特徴とする3・4-ジクロロブテン-1または1・4-ジクロロブテン-2の異性化方法。
17	48-34627 (48. 3.28)	57-26246 (57. 6. 3)	1139728 (58. 3.24)	トリクロロブテンの製造法 (ピーター・ジョン・ニコラス・ブラウン)	1-クロロブタジエン-1・3を塩素化して1,3,4-トリクロロブテン-1を製造する方法において、触媒として塩化亜鉛を用いることを特徴とする1,3,4-トリクロロブテン-1の製造法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
18	49-75865 (49. 7. 4)	57-32114 (57. 7. 8)	1139770 (58. 3. 24)	高純度金属コバルトの 製造法 (加藤 徹, 高橋 薫, 杉森 正敏)	塩化コバルト 45~220 g/l, ほう酸 2 g/l 以 上を含む pH 2~5 の溶液を電解浴とし浴温度 20~45°C で電解して金属コバルトを得ること を特徴とする高純度金属コバルトの製造法。
19	51-52111 (51. 5. 10)	57-31957 (57. 7. 7)	1139834 (58. 3. 24)	第一鉄を含む硫酸酸性 水溶液の処理方法 (宮之原 煉, 宮崎 弘, 河村 秀雄)	主として第一イオンを含む硫酸酸性水溶液に, 酸化マグネシエムまたは水酸化マグネシウムを 加え, 空気と接触させて第一鉄を酸化し, 鉄の 沈澱を析出させ, 分離するにあたって, 該水溶 液に塩化第一鉄を存在させることを特徴とする 第一鉄を含む硫酸酸性水溶液の処理方法。
20	51-101712 (51. 8. 27)	57-31451 (57. 7. 5)	1139840 (58. 3. 24)	無機ガスの吸着方法 (辻内 孝文, 森下 哲, 新堀 圭介)	一種又は二種以上よりなる無機ガスをアミニ ンアルカリ水溶液(A), ケイ酸塩, 鉄塩, 亜鉛塩 の少なくとも一種からなる水溶液(B), アルカリ 土類金属塩水溶液(C)より得られるアルミニ酸アル カリ土類金属ゲルを 1,000°C 以下で焼成した $M^1O : M^2mOn : Al_2O_3$ (M^1 : アルカリ土類 金属, M^2 : ケイ素, 鉄, 亜鉛, $m=1\sim 2$, $n=1$ ~ 3) のモル比が 0.5~10 : p : 1 (ただし, p は $0 < p \leq 1$) の範囲のアルミニ酸塩系吸着剤と接 触させることを特徴とする無機ガスの吸着方 法。
21	51-51327 (51. 5. 7)	57-35128 (57. 7. 27)	1142904 (58. 4. 13)	イツトリウム族希土成 分の分離法 (松本 傲博, 斎藤 博行, 菊地 光雄)	希土含有鉱石を硫酸で分解して得た分解泥 状物を, その全希土量に対しナトリウムとし て 0.5~5 g 原子倍量の硫酸ナトリウムまたは/ および塩化ナトリウムの水溶液中で 10~40°C において浸出し, 固相を分離除去した後得られ た水溶液相に対しさらに溶液中に存在する全希 土量に対しナトリウムとして 4~7 g 原子倍量 の硫酸ナトリウムまたは/および塩化ナトリウ ムを加え 60°C 以上に加温して生成する固相を 分離取得することを特徴とする希土含有鉱石か らのイツトリウム族希土の分離法。
22	53-114552 (53. 9. 20)	57-34847 (57. 7. 26)	1142968 (58. 4. 13)	エチレン重合体のカル ボキシル化方法 (朱山 秀雄, 森下 延男)	エチレン-酢酸ビニル共重合体, エチレン- 酢酸ビニル共重合体ケン化物, 高密度ポリエチ レン, 低密度ポリエチレン, 中密度ポリエチレン, エチレン-プロピレン共重合体から選ばれる エチレン重合体の存在下, アクリル酸, メタ クリル酸, マレイン酸, フマル酸, イタコン酸, 無水マレイン酸, 無水イタコン酸から選ばれる α , β -不飽和カルボン酸および/またはその無水 物をエチレン, プロピレン, イソブテン, プテ ノン-1, オクテン-1, 塩化ビニル, 塩化ビニリデン, 酢酸ビニル, ビニルクロロアセテート, ア クリロニトリル, アクリル酸あるいはメタアクリ ル酸のアルキルエステルから選ばれる少なく とも一種のビニリデンモノマーの共存下又は非 共存下に不均一系で反応させる際グラフト開始 剤として, ジ(2,4-ジクロロベンゾイル)ペ ーオキサイドを用いることを特徴とするエチレン 重合体のカルボキシル化方法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
23	53-140439 (53.11.16)	57-34848 (57.7.26)	1142972 (58.4.13)	エチレン重合体のカルボキシル化方法 (朱山秀雄, 森下延男)	エチレン-酢酸ビニル共重合体, エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物, 高密度ポリエチレン, 低密度ポリエチレン, 中密度ポリエチレン, エチレン-プロピレン共重合体から選ばれるエチレン重合体の存在下, グラフト開始剤を用いてアクリル酸, メタクリル酸, マレイン酸, フマル酸, イタコン酸, 無水マレイン酸, 無水イタコン酸から選ばれる α , β -不飽和カルボン酸および/または, その無水物をエチレン, プロピレン, イソブテン, ブテン-1, オクテン-1, 塩化ビニル, 塩化ビニリデン, 酢酸ビニル, ビニルクロロアセテート, アクリロニトリル, アクリル酸あるいはメタアクリル酸のアルキルエステルから選ばれる少なくとも一種のビニリデンモノマーの共存下又は非共存下に不均一系で反応させる際に反応媒体として炭素数4~8の脂肪族第三級アルコールを用いる事を特徴とするエチレン重合体のカルボキシル化方法。
24	52-35234 (52.3.31)	55-49538 (55.12.12)	1144874 (58.4.26)	懸濁触媒系の反応方法 (真渕俊介, 雲井貞勝, 統木建治)	液相で, 懸濁触媒を用いて連続的に化学反応を行うにあたり沪過器を内蔵した反応器を用いることにより, 反応器内で反応および触媒の分離を連続的に行うことの特徴とする懸濁触媒系の反応方法。
25	49-55333 (49.5.17)	57-37613 (57.8.11)	1147040 (58.5.12)	クロロプロレン重合体混合物 (シドニイ・ジョージ・フォッグ, デービッド・ジョン・ウォーカー)	ムーニー粘度 $MLI+4'$ (100°C) 40ないし100を有する第1のベンゼン可溶性のクロロプロレン重合体95%重量ないし85%重量%, および流体重合体をつくるためのジエチルキサントゲンジタルファイドよりなるキサンドゲン改良剤のクロロプロレン単量体の2ないし7重量%に相当する量の存在下にクロロプロレンを重合せしめることにより形成せしめた第2の, 流体の, ベンゼン可溶性クロロプロレン重合体5重量%ないし15重量%よりなることを特徴とするクロロプロレン重合体混合物。
26	47-79846 (47.8.9)	57-25525 (57.5.29)	1145787 (58.5.12)	1,3-ジクロロブタジエノ-2,3の製造法 (ピーター・ジョン・ニコラス・ブラウン, クリストフード・ウィリアム・カップ)	1-クロロブタジエンを塩素化し, 該塩素化生成物をアルカリ金属水酸化物の溶液を用いて, 脱塩酸することを特徴とする1,3-ジクロロブタジエノ-1,3の製造法。
27	49-42753 (49.4.18)	57-37530 (57.8.10)	1147843 (58.5.26)	クロム含有鉱石より塩化クロムと塩化鉄を製造する方法 (川上登, 加藤徹, 熊谷善四郎, 平野逸雄)	クロム含有鉱石を還元して得る高炭素フェロクロムを塩酸で溶解抽出し, 抽出液中に含まれる塩化鉄, 塩化クロムを分離回収する方法において 1) 前記抽出液中の鉄イオンを三面の鉄イオンとし 2) ついで有機中性リン酸化合物, 第1級アミン, 第2級アミン, 第3級アミン, 第4級アミンからなる群から選ばれた1種の有機質溶媒と三価鉄イオンを含む前記抽出液とを接触させて抽出液中の鉄分を前記有機質溶媒に移行させ

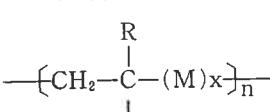
Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					3) 鉄分を含む有機質溶媒は、次いで水と接触させて水相に鉄分を移行させて回収し鉄分を分離した抽出残液からクロム分を回収することを特徴とするクロム含有鉱石より塩化クロムと塩化鉄を製造する方法。
28	49-115654 (49.10.9)	57-40834 (57.8.30)	1147848 (58.5.26)	6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-ヒドロキシピリド[1,2-a]ベンゾ[d]ピリミジン-10-オンの製造法 (横山 泰一, 柴田 勝弥, 藤井 修, 岩本 英次)	1,4-ビス(アルコキシカルボニル)-2,5-ジヒドロキン-1,4-シクロヘキサジエンと2-アミノピリジンとを溶媒中、酸の存在下で加熱することを特徴とする6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-ヒドロキシピリド[1,2-a]ベンゾ[d]ピリミジン-10-オンの製造法。
29	49-116209 (49.10.11)	57-40855 (57.8.30)	1147849 (58.5.26)	6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-アミノピリド[1,2-a]ベンゾ[d]ピリミジン-10-オン類の製造法 (横山 泰一, 柴田 勝弥, 藤井 修, 岩本 英次)	一般式  で表わされる1,4-ビス(アルコキシカルボニル)-2,5-ジアミノ-1,4-シクロヘキサジエン類(式中 R1 は低級アルキル基である)と 一般式  で表される2-アミノピリジン類(式中 R2 は水素又はメチル基である)とを溶媒中、酸の存在下で加熱することを特徴とする 一般式  で表される6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-アミノピリド[1,2-a]ベンゾ[d]ピリミジン-10-オン類(式中 R1 及び R2 は前記と同じである)の製造法。
30	49-135541 (49.11.27)	57-39167 (57.8.19)	1147852 (58.5.26)	亜硫酸ガスおよび窒素酸化物の処理方法 (坊上 成信, 戸倉 策磨, 深町 修, 佐伯 昭)	1. 亜硫酸ガスと窒素酸化物を含む気体を窒素酸化物と選択的に気相酸化反応する酸化剤と反応せしめ、該窒素酸化物を二酸化窒素とした後、海水と気液接触させ、海水中に固定される窒素化合物並びに亜硫酸イオンを減少させることを特徴とする亜硫酸ガスと窒素酸化物を同時に処理する方法。 2. 亜硫酸ガスと窒素酸化物を含む気体を窒

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					素酸化物と選択に気相酸化反応する酸化剤と反応せしめ、該窒素酸化物を二酸化窒素とした後、海水と気液接触させ、海水中に固定される窒素化合物並びに亜硫酸イオンを減少させた後、該海水を pH 6.5 以上の状態で酸素含有気体と接触させることを特徴とする亜硫酸ガスと窒素酸化物を同時に処理する方法。
31	54-26736 (54. 3. 9)	57-38677 (57. 8. 17)	1147880 (58. 5. 26)	3価クロムメッキ浴 （毛利 隆、横山 一男、三浦 正道）	1. 1) 3価クロム0.01から飽和濃度、2) アミノ酢酸、イミノジ酢酸、ニトリロトリ酢酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも1種を3価クロム濃度に対して0.5～4倍モル濃度、3) 亜二チオン酸、亜硫酸、重亜硫酸、メタ重亜硫酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも1種を0.0005モル～1モル濃度含んでなるクロムメッキ浴。 2. 1) 3価クロム0.01から飽和濃度、2) アミノ酢酸、イミノジ酢酸、ニトリロトリ酢酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも1種を3価クロム濃度に対して0.5～4倍モル濃度、3) 亜二チオン酸、亜硫酸、重亜硫酸、メタ重亜硫酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも1種を0.0005モル～1モル濃度含んでなるクロムメッキ浴。
32	54-164844 (54.12.20)	57-37463 (57. 8. 10)	1147887 (58. 5. 26)	複合積層フィルムの製造方法 （横溝総一郎、藤木 時男、佐藤 裏二） （日本ポリウレタン工業㈱と共に願）	アクリル酸を1ないし60重量%含有するエチレン-アクリル酸共重合体と少なくとも一ヶ以上の活性水素を分子内に有するアミンおよび/またはアンモニア水との反応によって得た当該共重合体のアミン塩および/またはアンモニウム塩の水溶液あるいはエマルジョンを主材とし、この濃度を水、水溶性有機溶剤あるいはこれら有機溶剤と水との混合物で1ないし20重量%に調製した溶液に、水溶性エポキシ樹脂、尿素ホルムアルデヒド樹脂、ポリイソシアネートプレポリマーあるいはこれらの混合物の水溶液あるいは有機溶剤溶液を硬化剤とし、これら硬化剤を主材固形分100重量部当り固形分換算で2ないし40重量部を配合してなる水溶性あるいは自己乳化性熱硬化型重合体組成物をプライマーとして紙、セロファン、金属蒸着プラスチックフィルムあるいは金属箔にコーティングし、少なくとも 80°C 以上の温度で加熱乾燥したのち、ポリオレフィン、エチレン-ビニルエステル共重合体、その加水分解物、エチレン(メタ)アクリル酸エステル共重合体、エチレン-(メタ)アクリル酸共重合体金属塩、カルボン酸変性エチレンポリマー、これら熱可塑性高分子のブレンド物あるいはホットメルト材を押出しコーティングすることを特徴とする複合積層フィルムの製造方法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
33	48-120692 (48.10.29)	57-41466 (57. 9. 3)	1152103 (58. 6. 30)	p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製法 (柳原 忠久, 古賀 俊国, 深堀建太郎)	<p>1. p-ジイソプロピルベンゼンを分子状酸素と接触させ, 得られた反応生成液から p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し, 実質的に p-ジイソプロピルベンゼンおよび p-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドからなる残液をリサイクルすることからなる p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造法において, 該反応生成液から分離した油層を固形状のアルカリ金属水酸化物またはアルカリ土類金属水酸化物に接触させた後, p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し, 回収残液をリサイクルすることを特徴とする p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製法。</p> <p>2. p-ジイソプロピルベンゼンを分子状酸素と接触させ, 得られた反応生成液から p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し, 実質的に p-ジイソプロピルベンゼンおよび p-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドからなる残液をリサイクルすることからなる p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造法において, 該残液を固形状のアルカリ金属水酸化物またはアルカリ土類金属水酸化物に接触させた後, リサイクルすることを特徴とする p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製法。</p>
34	52-7279 (52. 1. 27)	57-45427 (57. 9. 28)	1153488 (58. 6. 30)	ジペプチド誘導体とアミノ酸誘導体との付加化合物及びその製造法 (磯和 義員, 大森 宗樹, 森 馨, 市川 哲也, 野中 悠次, 木原 啓一, 小山 清孝, 佐藤平次郎, 西村 磁哲) ((財)相模中央化学研究所 と共願)	<p>1. 一般式</p> $\begin{array}{c} \text{O} & & \text{O} & & \text{O} \\ & & & & \\ \text{R}_3-\text{C}-\text{CH}-\text{NH}_2 \cdot \text{HOC}- & \text{HOC}- & \text{NH}-\text{C}- & \text{NH}-\text{CH}-\text{C}-\text{R}_3 \\ & & & & \\ \text{R}_2 & & \text{R}_1 & & \text{R}_2 \end{array}$ <p>で表わされ, 実質的に一般式</p> $\begin{array}{c} \text{O} & & \text{O} & & \text{O} \\ & & & & \\ \text{R}_3-\text{C}-\text{CH}-\text{NH}_2 \cdot \text{HOC}-\text{CH}- & -(\text{CH}_2)_n-\text{C}- & \text{NH}-\text{CH}-\text{C}-\text{R}_3 \\ & & & & \\ \text{R}_2 & & \text{R}_1 & & \text{R}_2 \end{array}$ <p>で表わされる化合物を含まない化合物 (両式中 R₁ は脂肪族オキシカルボニル基, 核置換基を有すことあるベンジルオキシカルボニル基, ベンゾイル基, 芳香族スルフォニル基, 又は芳香族スルフィニル基であり, R₂ はメチル基, イソプロピル基, イソブチル基, イソアミル基又はベンジル基であり, R₃ は低級アルコキシ基, ベンジルオキシ基又はベンズヒドロオキシ基であり, n は 1 又は 2 である。)</p>

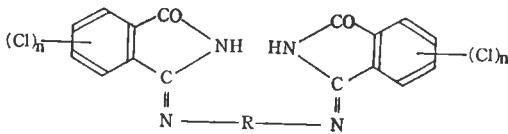
Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p>2. 第一の一般式中の</p> $\text{R}_3-\overset{\text{O}}{\underset{\text{R}_2}{\underset{\parallel}{\text{C}}}}-\text{CH}-\text{NH}_2 \quad \text{単位がD-型及びL-型で}$ $\text{HOC}-\overset{\text{O}}{\underset{\text{R}_2}{\underset{\parallel}{\text{C}}}}-(\text{CH}_2)_n-\overset{\text{R}_1}{\underset{\mid}{\text{NH}}}-\overset{\text{O}}{\underset{\parallel}{\text{C}}}-\text{NH}-\overset{\text{O}}{\underset{\parallel}{\underset{\mid}{\text{C}}}}-\text{CH}-\overset{\text{O}}{\underset{\parallel}{\underset{\mid}{\text{C}}}}-\text{R}_3$ <p>で表わされるジペプチドエステルとアミノカルボン酸エステルとの付加化合物（式中 R_1, R_2, R_3 及び n は前記同様の意味である）の製造法。</p>
35	53-28223	57-49066	1153513	イソインドリノン系顔料組成物 (53. 3.14) (57. 10. 20) (58. 6. 30) (横山 泰一, 井上 孝彦, 岩本 英次, 蔵本 憲一)	<p>1. イソインドリノン系顔料とアニオン性界面活性剤の水不溶性あるいは難溶性無機塩とかなるイソインドリノン系顔料組成物。</p> <p>2. イソインドリノン系顔料にアニオン性界面活性剤を加えた水性スラリーへ金属イオンを添加してアニオン性界面活性剤の水離溶性塩を形成させ, さらに過剰の金属イオンを炭酸根, 硫酸根あるいはリン酸根などの添加により水不溶性あるいは難溶性塩として不溶化し, 次いで汎過乾燥することを特徴とするイソインドリノン系顔料組成物の製造法。</p>
36	54-59171	57-45460	1153531	電解用非晶質合金電極材料 (54. 5. 16) (57. 9. 28) (58. 6. 30) (橋本 功二, 増本 健, 原 基, 浅見 勝彦, 崎山 和孝) (橋本 功二と共に願)	<p>1. P および Si のいずれか 1 種あるいは 2 種 10~40 原子% を含み, 残部は実質的に Pd, Rh および Pt の 2 種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p> <p>2. P および Si のいずれか 1 種あるいは 2 種 10~40 原子% を含み, かつ, Ru および Ir のいずれか 1 種あるいは 2 種 20 原子% 以下を含み, 残部は実質的に Pd, Rh および Pt の 2 種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p> <p>3. P および Si のいずれか 1 種あるいは 2 種 10~40 原子% を含み, かつ, Ti, Zr, Nb および Ta のいずれか 1 種または 2 種以上 25 原子% 以下を含み, 残部は実質的に Pd, Rh および Pt の 2 種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p> <p>4. P および Si のいずれか 1 種または 2 種 10~40 原子% を含み, かつ, Ru および Ir のいずれか 1 種または 2 種 20 原子% 以下ならびに Ti, Zr, Nb および Ta のいずれか 1 種または 2 種以上 25 原子% 以下を含み, 残部は実質的に Pd, Rh および Pt の 1 種または 2 種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p>
37	51-24693	57-31925	1155639	ポーラスポリビニルアルコールハードゲルの製造方法 (51. 3. 9) (57. 7. 7) (58. 7. 15) (木戸 士龍, 斎藤 祐司, 岩枝 俊直)	<p>1. ポアサイズを制御できる希釈剤の存在下に酢酸ビニルをジェチレングリコールジメタクリレートあるいはグリシジルメタクリレートを架橋剤として懸濁重合し, 得られたポー</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					ラスボリ酢酸ビニルゲルをアルカリでケン化し、得られたポーラスボリビニルアルコールゲルをさらにエピクロルヒドリンで後架橋することを特徴とする水系ゲルパークエイションクロマトグラフィー用ポーラスボリビニルアルコールハイドゲルの製造方法。
38	51-56114 57-13360 1155641 (51. 5. 18) (57. 3. 16) (58. 7. 15) (宮之原 熱, 宮崎 弘, 河村 秀雄)	生物系スラッジの改質法			1. 生物系スラッジにマグネシウム化合物と鉄塩を添加することを特徴とする生物系スラッジの改良法。 2. 生物系スラッジにマグネシウム化合物と鉄塩を添加し、更にアルカリ剤を添加して最終の pH を 9 以上に維持することを特徴とする生物系スラッジの改良法。
39	53-24576 57-243 1155673 (53. 3. 6) (57. 1. 6) (58. 7. 15) (村上 次雄, 菊地 光雄, 井川 一成)	柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物およびその製造方法			1. 次亜塩素酸カルシウム二水化物の a, b, c 各軸の比が $0.5 \leq b/a \leq 2.0$ $c/a \geq 1.5$ であり、かつ c 軸が 5 ミクロン以上であることを特徴とする柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物。 2. 次亜塩素酸カルシウム二水化物の晶出の際、カルボン酸、カルボン酸塩および炭水化物より選ばれた一種類以上の媒晶剤の存在下、次亜塩素酸カルシウム二水化物の a, b, c 各軸の比が $0.5 \leq b/a \leq 2.0$ $c/a \geq 1.5$ であり、かつ c 軸が 5 ミクロン以上である次亜塩素酸カルシウム二水化物を晶出させることを特徴とする柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物の製造方法。
40	49-141490 57-53379 1157041 (49. 12. 11) (57. 11. 12) (58. 7. 15) (小坂勇次郎, 兼重 洋右, 大腰島之助, 岸 昭雄)	クロロブレンゴム配合物の安定化方法			レゾルシノール、メチレン供与体を含むクロロブレンゴム配合物中に、クロロブレンゴム 100重量部あたり 0.5ないし 10重量部の一般式 HO(RO)nH (但し, R; C ₂ ~C ₂₀) のアルキレン基を示す, n; 1~1,000) で示されるグリコール類を添加混練することを特徴とするクロロブレンゴム配合物の安定化方法。
41	54-53411 57-48002 1157216 (54. 5. 2) (57. 10. 13) (58. 7. 15) (大鶴 雅昭, 鈴木 祐二)	白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製造方法			酢酸ビニル含量70重量%以下のエチレン-酢酸ビニル共重合体を加熱溶触混練状態において 20重量%から飽和濃度までの苛性アルカリ水溶液を用いて苛性アルカリにて直接ケン化することを特徴とする白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体のケン化物の製造方法。
42	54-83928 57-48007 1157218 (54. 7. 4) (57. 10. 13) (58. 7. 15) (朱山 秀雄)	変性エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法			エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物と N-メチロールアクリルアミドおよび/または N-メチロールメタアクリルアミドとを触媒存在下に反応させるにおいて、溶媒の非存在下、かつ該エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の加熱溶触状態下に反応させることを特徴とする変性エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
43	55-855 (55. 1. 10)	57-53328 (57. 11. 12)	1157227 (58. 7. 15)	血漿アルブミンの分離方法 (小山 憲治, 大野省太郎, 福田三寿)	血漿成分よりあらかじめ粗アルブミン成分を粗分画し次いでポリスルホン樹脂より製膜された限外濾過膜を用いてアルブミンを分離することを特徴とする血漿アルブミンの分離方法。
44	51-38782 (51. 4. 8)	56-26601 (56. 6. 19)	1159361 (58. 7. 25)	高度さらし粉の製造方法 (菊地 光雄, 村上 次雄)	(1) 次亜塩素酸カルシウムと塩化ナトリウムを主成分とする水溶液に石灰又は石灰と水を加え二塩基性次亜塩素酸カルシウムのスラリーを形成し, (2) 前記二塩基性次亜塩素酸カルシウムのスラリーに苛性ソーダを加え複分解した後塩素化し, 次いで分級分離し次亜塩素酸カルシウム結晶を主とするスラリーを得, (3) 前記塩化ナトリウム結晶を主とするスラリーに次亜塩素酸カルシウムに対し不飽和で且つ塩化ナトリウムを含有する水溶液を混合した後, 塩化ナトリウム結晶と母液Bとに分離し, (4) (3)で得た次亜塩素酸カルシウム結晶を主とするスラリーを母液Aと分離し乾燥脱水することを特徴とする高度さらし粉の製造方法。
45	53-35357 (53. 3. 29)	57-244 (57. 1. 6)	1159390 (58. 7. 25)	粗大次亜塩素酸カルシウム二水化物の製造方法 (菊地 光雄, 村上 次雄, 井川 一成)	次亜塩素酸カルシウム二水化物の晶出の際, 種晶として次亜塩素酸カルシウム二水化物のa, b, c 各軸の比が $0.5 \leq b/a \leq 2.0$ $c/a \geq 1.5$ であり, かつc軸が5ミクロン以上である柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物を添加することを特徴とする粗大次亜塩素酸カルシウム二水化物の製造方法。
46	54-14939 (54. 2. 4)	57-245 (57. 1. 6)	1159403 (58. 7. 25)	二塩基性次亜塩素酸カルシウムの製造方法 (村上 次雄, 菊地 光雄, 井川 一成)	二塩基性次亜塩素酸カルシウムの晶出の際カルボン酸, カルボン酸塩, 炭水化物より選ばれた一種類以上の媒晶剤の共存下で二塩基性次亜塩素酸カルシウムの晶出を行うことを特徴とする二塩基性次亜塩素酸カルシウムの製造方法。
47	52-18644 (52. 2. 24)	57-57555 (57. 12. 4)	1162517 (58. 8. 10)	腐食防止剤 (崎山 和孝, 吉田 節夫)	1. リン酸エタノールアミン類と重クロム酸塩とからなることを特徴とする腐食防止剤。 2. 循環冷却水中にリン酸エタノールアミン類と重クロム酸塩とからなる混合物を20~1,000 ppm 添加することを特徴とする腐食防止剤の使用法。
	50-65426 (50. 6. 2)	57-59843 (57. 12. 16)	1165110 (58. 8. 26)	ポリイオンコンプレックスの製造方法 (清田 徹, 小坂勇次郎, 清水 明彦)	一般式 (1) $\text{--}[\text{CH}_2-\overset{\text{R}}{\underset{ }{\text{C}}}-(\text{M})\text{x}]_n\text{--}$  (1) $\begin{array}{c} \text{B}^\ominus \text{R}_1 \\ \oplus \\ \text{CH}_2-\text{N}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{CH}_2 \\ \quad \quad \\ \text{R}_2 \quad \text{OH} \quad \text{X} \end{array}$

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
48					<p>(ただし、Xはアデニン、チミン、シトシン、ウラシルまたはその誘導体である。プリン環は9-位で、ピリミジン環は1-位でそれぞれ反応している。Mは置換または未置換のエチレン基であって、xは0を含む任意の数である。Bはハロゲン原子または水酸基である。yは0ないし1の数である。Rは水素原子または炭素数1ないし4のアルキル基である。R₁およびR₂は炭素数1ないし10の炭化水素基である。nは10以上の任意の数である。) または一般式(2)</p> <p style="text-align: center;"> $\text{---} \left[\text{CH}_2 - \text{CH} - (\text{M})_x \right]_n \text{---}$ (2) </p> <p>(ただし、Xはアデニン、チミン、シトシン、ウラシルまたはその誘導体である。プリン環は9-位で、ピリミジン環は1-位でそれぞれ反応している。Mは置換または未置換のエチレン基であって、xは0を含む任意の数である。Bはハロゲン原子または水酸基である。yは0ないし1の数である。Rは炭素数0ないし4のアルキル基である。nは10以上の任意の数である。) で示される核酸塩基含有ポリカチオンポリマーと水ガラスとから製造される新規のポリイオンコンプレックスの製造方法。</p>
49	51-75462 (51. 6.28)	57-60293 (57.12.18)	1165145 (58. 8.26)	塩基性塩化アルミニウムの製造方法 (宮之原 勲、宮崎 弘、 河村 秀雄)	<p>塩基性塩化アルミニウム塩の製造にあたり、先ず第1工程として、原料として Al, Cl, SO₄ の割合を Al(Cl) × (SO₄)_y (ここで $\frac{x}{3} = 0.42 \sim 0.45$, $\frac{2y}{3} = 0.55 \sim 0.58$, $\frac{x}{3} + \frac{2y}{3} = 1$) のモル組成となした水溶液に CaCO₃ を SO₄ イオンと等モル加えて反応させ、塩基度55～58の塩基性塩化アルミニウム溶液を調製し、次いで第2工程として該塩基性塩化アルミニウム溶液に 60°C 以下で MgO, Mg(OH)₂, Na₂CO₃, NaHCO₃ および CaCO₃ の群から選ばれた薬剤を加えて反応させ塩基度を60～70に調整することを特徴とする塩基性塩化アルミニウム塩の製造方法。</p>
50	52-89303 (52. 7.27)	57-59847 (57.12.16)	1165193 (58. 8.26)	ポーラスピリスチレンゲルの製造法 (木戸 士龍、横田 哲雄)	<p>スチレンとジビニルベンゼンを共重合させて、ポーラスピリスチレンゲルを水性相中で懸濁重合により得るにあたり、スチレンとジビニルベンゼンの合計量に対し、5モル%のラジカル発生触媒を加えることを特徴とするポーラスピリスチレンゲルの製造法。</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
51	49-65608 (49. 6.11)	53-16401 (53. 6. 1)	1166671 (58. 9. 8)	接着促進剤 (小坂勇次郎, 井村 信一)	1. ポリエチレンイミン100重量部に対してでん粉あるいは変性でん粉を10~200重量部の割合で含む固型分が0.01~5重量%の水溶液から成ることを特徴とする熱可塑性樹脂の溶融押出コーティング用接着促進剤。 2. ポリエチレンイミン100重量部に対してでん粉あるいは変性でん粉を10~200重量部、ポリアクリル酸を1~30重量部の割合で含む固型分が0.01~5重量%の水性溶液から成ることを特徴とする熱可塑性樹脂の溶融押出コーティング用接着促進剤。
52	50-7063 (50. 1.17)	57-53077 (57.11.11)	1166689 (58. 9. 8)	アルコキシ酢酸の製造法 (長島 靖臣, 濱戸 弘司, 五十嵐辰夫)	アクロモバクター属又はアルカリゲネス属に属し、アルコキシエタノールからアルコキシ酢酸を产生することのできる微生物をアルコキシエタノールを含む培地に培養し、生成したアルコキシ酢酸を採取することを特徴とするアルコキシ酢酸の製造法。
53	52-45131 (52. 4. 21)	57-48555 (57.10.16)	1166723 (58. 9. 8)	テトラヒドロフランの分離精製方法 (眞淵 俊介, 続木 建治, 松永 秀秋)	テトラヒドロフランとエタノールの混合物を0.14~0.41 kg/cm ³ の圧力下で減圧蒸溜することを特徴とするテトラヒドロフランの分離精製方法。
54	52-139415 (52.11.22)	57-61287 (57.12.23)	1166727 (58. 9. 8)	核酸塩基関連化合物を含むポリカチオンポリマーの製造方法 (清田 徹, 清水 明彦)	下記一般式で示されるポリカチオンポリマー $\text{--}\left(\begin{array}{c} \text{X}^{\ominus} \\ \\ \text{R}^{\oplus} \\ \\ \text{N}(\text{CH}_2\text{CH(OH)CH}_2)_n \\ \\ \text{CH}_2 \\ \\ \text{CH}_2\text{O} \end{array}\right)\text{--}$ (ただし, XはBrまたはCl, RはCH ₃ またはC ₂ H ₅ であり, nは4~500である。)に核酸塩基および/またはその関連化合物を, 溶媒中で触媒の存在下で反応させることを特徴とする核酸塩基および/またはその関連化合物を含むポリカチオンポリマー製造方法。
55	53-78540 (53. 6. 30)	57-61282 (57.12.23)	1166738 (58. 9. 8)	メタクリル酸エステル重合体の製造方法 (福田 三寿, 田子 和夫, 清水 明彦)	重合溶媒中で、メタクリル酸エステルをアニオン重合するにあたり、一般式が $\text{CHR}'=\text{CR}''$ (式中, R'は水素, フェニル基, あるいは炭素数1から4のアルキル基であり, R''はフェニル基あるいは炭素数1から4のアルキル基である)で表わされる芳香族ビニル化合物をメタクリル酸エステルの仕込モル数に対して1モル%以下添加して重合することを特徴とする分子量分布の狭いメタクリル酸エステル重合体の製造方法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
56	47-36033 (47. 4.12)	57-44464 (57. 9.21)	1167977 (5. 9.30)	改良された発泡体複合シート (山名 義保, 新居 宏介, 佐倉 正一, 藤井 秀雄) (大日本インキ工業株と共願)	1. 二軸延伸された透明な熱可塑性ビニルアルケン重合体シート或いはフィルム層, 2. メルトイソデックス 3~8 g/10分, 密度 0.916~0.927 g/cm ³ のエチレンの低密度単独重合体及び/又はメルトイソデックス 3~8 g/10分, 密度 0.916~0.927 g/cm ³ でビニルエステル含有量が 1~30重量%であるエチレンとビニルエステルとの共重合体より成る薄膜接着媒体層, 及び 3. 多孔質熱可塑性ビニルアルケン重合体シート層の三層から成る貼り合わせ複合体であることを特徴とする, とくに機械的性質並びに表面性が向上された, しかも層内面の装飾特性が付与された発泡体複合シート。
57	57-70013 (55. 5.28)	58-754 (58. 1.7)	1168028 (58. 9.30)	塩化アルカリ水溶液の電解方法 (佐藤 孝男)	陽イオン交換膜を用い, 陽極室と陰極室を区割してなる電解槽を用いて塩化アルカリ水溶液を電解し, 苛性アルカリを製造する方法において, 陽極及び陰極から発生するガスによって電解槽上部に生ずる気液混相部における陽イオン交換膜と陽極及び/又は陰極との間に開口率 10~90%で, 且つ高さが 30 cmないし電解槽の高さの 1/4 に相当するスペーサーを介在させることを特徴とする塩化アルカリ水溶液の電解方法。
58	49-97542 (49. 8.27)	57-61055 (57.12.22)	1170189 (58.10.17)	イソインドリノン顔料の製造法 (岩本 英次, 上野 喜美, 柴田 勝弥)	一般式  (式中, R は芳香族基を示し, n は 1~4 の整数を示す) で示されるイソインドリノンを, 水の存在又は不在下にモノアルキルアミンおよびジアルキルアミンからなる群から選ばれた少なくとも 1 種のアミンに溶解し, これを多量の水で稀釈し, イソインドリノンのアミン塩を析出させ, 次いでこれを加熱してアミンを留出除去させ, 微細なサイズのイソインドリノンを得ることを特徴とするイソインドリノン顔料の製造法。
59	49-131100 (49.11.15)	57-61057 (57.12.22)	1170197 (58.10.17)	イソインドリノン系顔料の顔料化法 (横山 泰一, 藤井 修, 吉崎 美由)	粗製のイソインドリノン系顔料を振動ミル又はボールミルで粉碎するに当り, 粗製イソインドリノン系顔料に対して, 無機塩 5~15 重量倍, 極性有機溶剤 5~20 重量倍の存在下で粉碎し, 次いで得られた内容物から粉碎されたイソインドリノン系顔料を分離することを特徴とするイソインドリノン系顔料の顔料化法。

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
60	50-100223 (50. 8.20)	58-3973 (58. 1.24)	1170226 (58.10.17)	リンを含むアルミニウム系スラッジの処理法 (宮之原 熊、宮崎 弘)	リンを含むアルミニウム系スラッジに硫酸を加えてアルミニウムを溶解した後に中和剤を加えてpHを3~4に調節することにより、リンの沈殿を析出させ、分離すると共にリンの混入の少ない硫酸アルミニウム水溶液を得ることを特徴とするリンを含むアルミニウム系スラッジの処理法。
61	55-59995 (55. 5. 8)	58-1693 (58. 1.12)	1170339 (58.10.17)	接着性樹脂組成物 (西崎 克巳、鈴木 祐二)	カルボキシル化エチレン-酢酸ビニル共重合体とポリアクリル酸とからなる接着性樹脂組成物。
62	55-139882 (55.10. 8)	58-1710 (58. 1.12)	1170343 (58.10.17)	接着方法 (西崎 克巳、森下 延男)	ポリエステル樹脂とポリエステル樹脂あるいは他の基材を接着する方法において、エチレン-酢酸ビニル共重合体とα, β-不飽和カルボン酸またはその無水物をラジカル開始剤の存在下溶融状態で反応して得られるカルボキシル変性エチレン-酢酸ビニル共重合体100重量部と塩素化ポリエチレン10~300重量部からなる樹脂組成物を接着剤として用いることを特徴とする接着方法。
63	52-57036 (52. 5.19)	58-5038 (58. 1.28)	1170272 (58.10.17)	ジペプチドエステルの製造方法 (大森 宗樹、磯和 義員、市川 哲也、森 韶、野中 悠次、木原 啓一、小山 清孝、佐藤平次郎、西村 滋哲) ((財)相模中央化学研究所 と共に)	一般式(1) $\begin{array}{c} \text{R}_1 \\ \\ \text{O} \quad \text{NH} \quad \text{O} \\ \quad \\ \text{HO}-\text{C}-(\text{CH}_2)_n-\text{CH}-\text{COH} \end{array}$ で表わされ、少なくともその一部はL-型の光学異性体であるN-置換モノアミノジカルボン酸(式中R ₁ は脂肪族オキシカルボニル基、核置換基を有することのあるベンジルオキシカルボニル基、ベンゾイル基、芳香族スルフォニル基又は芳香族スルフィニル基であり、nは1又は2である)と、一般式(II) $\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{H}_2\text{N}-\text{CH}-\text{C}-\text{R}_3 \\ \\ \text{R}_2 \end{array}$ で表わされ、少なくともその一部はL-型の光学異性体であるアミノ酸エステル(式中R ₂ はメチル基、イソプロピル基、イソブチル基、イソアミル基又はベンジル基であり、R ₃ は低級アルコキシ基、ベンジルオキシ基又はベンズヒドリルオキシ基である)とを水性媒体中蛋白分解酵素の存在下で反応させて、一般式(III) $\begin{array}{c} \text{O} \quad \text{O} \quad \text{R}_1 \\ \quad \quad \\ \text{R}_3-\text{C}-\text{CH}-\text{NH}_2 \cdot \text{HO}-\text{C}-(\text{CH}_2)_n-\text{CH}-\text{C}-\text{NH}-\text{CH}- \\ \quad \quad \\ \text{R}_2 \quad \text{R}_2 \quad \text{R}_2 \end{array}$ $\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ -\text{C}-\text{R}_4 \end{array}$

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p>で表わされる化合物（式中 R₁, R₂, R₃ 及び n は前記同様の意味を表わす）を生成させ、これを反応液から分離し、分離されたこの化合物を酸性水溶液と混合反応させ、反応混合液を固液分離し、一般式（IV）</p> $\text{HOC}-(\text{CH}_2)_n-\overset{\text{R}_1}{\underset{\text{O}}{\overset{ }{\text{NH}}}}-\text{CH}-\overset{\text{O}}{\underset{\text{R}_2}{\overset{ }{\text{C}}}}-\text{NH}-\text{CH}-\overset{\text{O}}{\underset{\text{R}_3}{\overset{ }{\text{C}}}}$ <p>（式中 R₁, R₂, R₃ 及び n は前記同様の意味である）で表わされる LL-型ジペプチドエステルを固相として回収することを特徴とするジペプチドエ斯特の製造方法。</p>
64	52-124599 (52.10.19)	58-5039 (58.1.28)	1170285 (58.10.17)	α-アスパルチルフェニルアラニンアルキルエ斯特の製造方法	<p>一般式</p> $\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{R}-\text{C}-\text{CH}-\text{NH}_2 \\ \\ \text{CH}_2 \\ \\ \text{C}_6\text{H}_5 \end{array}$ <p>で表わされ、少なくともその一部は L-型の光学異性体であるフェニルアラニンアルキルエ斯特（式中 R は低級アルコキシル基である）と式</p> $\begin{array}{c} \text{O} & \text{O} \\ \parallel & \parallel \\ \text{HO}-\text{C}-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{C}-\text{OH} \\ \\ \text{NH} \\ \\ \text{CO} \\ \\ \text{O}-\text{CH}_2-\text{C}_6\text{H}_4-\text{O}-\text{CH}_3 \end{array}$ <p>で表わされ、少なくともその一部は L-型の光学異性体である N-p-メトキシベンジルオキシカルボニルアスパラギン酸とを水性媒体中蛋白分解酵素の存在下で反応させて、一般式</p> $\begin{array}{c} \text{O} & \text{O} & \text{O} & \text{O} \\ \parallel & \parallel & \parallel & \parallel \\ \text{R}-\text{C}-\text{CH}-\text{NH}-\text{C}-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{C}-\text{OH}\cdot\text{H}_2\text{N}-\text{CH}-\text{C}-\text{R} \\ & & & \\ \text{CH}_2 & \text{NH} & \text{CO} & \text{CH}_2 \\ & & & \\ \text{C}_6\text{H}_5 & \text{O}-\text{CH}_2-\text{C}_6\text{H}_4-\text{O}-\text{CH}_3 & \text{O}-\text{CH}_2-\text{C}_6\text{H}_4-\text{O}-\text{CH}_3 & \text{C}_6\text{H}_5 \end{array}$ <p>で表わされ、かつ、結晶水を含むことのある N-p-メトキシベンジルオキシカルボニル-α-L-アスパルチル-L-フェニルアラニンアルキ</p>

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p>ルエステルとフェニルアラニンアルキルエステルとの1:1付加化合物（式中Rは前記同様の意味である）を生成、析出させ、これを反応液から分離し、分離されたこの1:1付加化合物を液状媒体中に溶解し、酸で分解することを特徴とする</p> <p>一般式</p> $ \begin{array}{c} \text{O} & \text{O} & \text{O} \\ & & \\ \text{R}-\text{C}-\text{CH}-\text{NH}-\text{C}-\text{CH}-\text{CH}_2-\text{C}-\text{OH} \\ & & \\ \text{CH}_2 & \text{NH}_2 & \text{O} \\ \\ \text{C}_6\text{H}_5 \end{array} $ <p>で表わされる α-L-アスパルチル-L-フェニルアラニンアルキルエステル（式中Rは前記同様の意味である）の製造方法。</p>
65	54-26151 (54. 3. 8)	58-5842 (58. 2. 2)	1173403 (58.10.28)	高純度次亜塩素酸カルシウム二水化物のスラリーの取得方法 (村上 次雄, 菊地 光雄, 井川 一成)	水難溶性固体の少ない高純度次亜塩素酸カルシウム二水化物のスラリーを得るに際して、分級槽上部より水難溶性固体を含む次亜塩素酸カルシウム二水化物のスラリーを供給し、かつ、分級槽下部より次亜塩素酸カルシウムを含む水溶液又は次亜塩素酸カルシウム二水化物を含むスラリーを供給して上昇流を与えること、分級槽内温度 10~35°C で、水難溶性固体を多く含むスラリーを取り出すと共に水難溶性固体が少なく、かつ、高濃度の高純度次亜塩素酸カルシウム二水化物のスラリーを取り出すことを特徴とする高純度次亜塩素酸カルシウム二水化物のスラリーの取得方法。
66	49-126632 (49.11. 5)	58-6724 (58. 2. 5)	1173299 (58.10.28)	濃縮または蒸留方法 (大沼 宏, 岩下 徹, 田中 浩二, 萩沢 茂, 南出 博, 小宮 克夫)	石油留分の重合により得られた石油樹脂溶液の濃縮または蒸留をおこなうに当り、濃縮缶または蒸留缶の底部より不活性ガスを吹込みながら、かつ系内を該不活性ガスで置換し、該不活性ガスを循環させてこれを行うことを特徴とする濃縮または蒸留方法。
67	50-91938 (50. 7. 30)	58-8916 (58. 2. 18)	1173325 (58.10.28)	亜硝酸イオンの除去法 (宮之原 熱, 宮崎 弘)	亜硝酸イオンを亜硫酸イオンで還元する際に二価の鉄または二価の銅イオンを存在させることを特徴とする亜硝酸イオンの除去法。
68	54-23393 (54. 3. 2)	58-8687 (58. 2. 17)	1176607 (58.11.14)	オレフィン重合触媒の製造方法 (窪田 吉孝, 秋元 明)	不活性ガス気流中、ハロゲン化マグネシウムにハロゲン化チタンを気相担持させることを特徴とするオレフィン重合触媒の製造方法。
	49-115656 (49.10. 9)	58-11901 (58. 3. 5)	1178068 (58.11.30)	キナゾロン誘導体の製造法 (横山 泰一, 柴田 勝弥, 藤井 修, 岩本 英次)	<p>一般式</p> $ \begin{array}{c} \text{H}_2\text{N}-\text{C}(=\text{O})-\text{C}(\text{O}-\text{R}_1)-\text{C}(=\text{O})-\text{OR}_1 \\ \qquad \qquad \\ \text{R}_1\text{O}-\text{C}(=\text{O})-\text{C}(\text{O}-\text{R}_1)-\text{C}(=\text{O})-\text{NH}_2 \end{array} $

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
69					<p>(式中 R₁ はメチル基、エチル基などのアルキル基を示す。) で示される 1,4-ビス(アルコキシカルボニル)-2,5-ジアミノ-1,4-シクロヘキサジエン類を溶媒中酸の存在下で、一般式</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(式中 R₂～R₄ は水素又はメチル基、エチル基などのアルキル基を示す。) で示される 2-アミノピリジン類と反応させ、一般式</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(式中 R₂～R₄ は水素又はメチル基、エチル基などのアルキル基を示す。) で示される 6,14-ジヒドロピリド[2,1-b]ピリド[1',2':1,2]ピリミド[4,5-g]キナゾリン-7,15-ジオン類を製造することを特徴とするキナゾロン誘導体の製造法。</p>
70	52-153648 58-11917 1178109 (52.12.22) (58. 3. 5) (58.11.30) (松下 駿, 佐藤 孝, 多田 芳光, 生重 哲男, 橋本 勉)			石油および石炭系重量質分の分離方法	<p>1. 石油および石炭系重質分をゲル浸透クロマトグラフィにて同時あるいは各別に分離する方法において、カラム充てん剤として、耐圧 100 kg/cm² 以上の機械的強度を有し、かつ粒径 5～177 Å の球形で、孔径が 13～10⁵ Å の多孔性担体、溶離液として、含窒素複素環化合物を用い、カラム温度を、30～150°C にて分離することを特徴とする石油および石炭系重質分の分離方法。</p>
71	53-99561 58-13218 1178110 (53. 8.17) (58. 3.12) (58.11.30) (大鶴 雅昭)			両性イオン交換体、その製造方法およびそれによる脱塩方法	<p>1. 三次元化されたポリエチレンイミン中の立体空隙に、弱酸性陽イオン交換樹脂が分散して成る両性イオン交換体。 2. ポリエチレンイミン、ポリエチレンイミンを溶解する溶媒および弱酸性陽イオン交換樹脂からなるスラリーを、界面活性剤を含有するかまたは含有しないカプセル化媒体液中に攪拌下添加して球形化させ、さらに多官能性架橋用化合物を添加して三次元化することを特徴とする両性イオン交換体の製造方法。 3. 三次元化されたポリエチレンイミン中の立体空隙に、弱酸性陽イオン交換樹脂が分散して成る両性イオン交換体を用いることを特徴とする塩水の両性イオン交換体による脱塩方法。</p>

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
72	50-45833 (50. 4.17)	58-15447 (58. 3.25)	1181146 (58.12. 9)	タングステン塩化物の 製造方法 (加藤 明美, 川上 登)	炭素質の存在下でタングステン酸ナトリウム に塩素ガスを反応させることを特徴とするタン グステン塩化物の製造方法。
73	50-97510 (50. 8.13)	58-13562 (58. 3.14)	1181161 (58.12. 9)	核酸塩基を含む高分子 電解質の製法 (清田 徹, 清水 明彦)	下記一般式(1) $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \leftarrow CH_2 - C - \rightleftharpoons \\ \\ C=O \\ \\ O - R_2 - N \\ \\ R_4 \end{array} \quad (1)$ (ただし, R_1 は水素原子または炭素数1ない し4のアルキル基である。 R_2 は炭素数1ない し4の炭化水素基である。 R_3, R_4 は炭素数1な いし6の炭化水素基である。) で示されるモノ マー単位を含む重合体と, 下記一般式(2) $\begin{array}{c} B \\ \\ CH_2 - CH - CH_2 - X \\ \\ OH \end{array} \quad (2)$ (ただし, Bはアデニン, チミン, ウラシル, シ トシンおよびその関連化合物である。プリン環 は9-位で, ピリミジン環は1-位でそれぞれ反応 している。Xはクロルおよびプロム原子であ る。) とを溶媒中で反応せしめることを特徴と する高分子電解質の製法。
74	51-28141 (51. 3.17)	58-15198 (58. 3.24)	1181180 (58.12. 9)	有機化合物の処理法 (長島 靖臣, 五十嵐辰夫)	エーテル結合を有する化合物を含む廃水を活 性汚泥法により処理して浄化するに当り, 使用 する活性汚泥に, アルカリゲネス属又はアクロ モバクター属に属しエーテル結合を有する化合 物を利用し得る微生物を添加し, この微生物を 含む活性汚泥をエーテル結合を有する化合物を 含む訓陽培地中で訓養したのち使用することを 特徴とする有機化合物の処理方法。
75	50-97509 (50. 8.13)	58-15495 (58. 3.25)	1182768 (58.12.27)	ポリイオンコンプレッ クスの製法 (清田 徹, 清水 明彦)	ポリカチオンポリマーとして, 一般式 $\begin{array}{c} -(CH_2 - CH) - (M)_x - n \\ \\ \text{R}_2 \\ \\ \text{R}_2 \end{array}$ + $\text{N}^{\oplus} - \text{R}_1$ および/または $\begin{array}{c} -(CH_2 - C) - (M)_x - n \\ \\ \text{R}_2 \\ \\ \text{R}_2 \\ \\ \text{CH}_2 - \text{N}^{\oplus} - \text{R}_1 \\ \\ \text{R}_4 \end{array}$

Nº	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p>[ただし、R₁は以下に示す不飽和基</p> $\text{CH}_2=\overset{\text{R}}{\underset{ }{\text{C}}}-(\text{CH}_2)_p(\text{Y})_q(\text{Q})_r-$ <p>(ただし、Rは水素原子または炭素数1~4のアルキル基、pは0または1、Yは$-\text{C}(=\text{O})-\text{O}-$、$-\text{O}-$、$-\text{CH}_2-\text{O}-$から選ばれる基、qは0または1、Qは$-\text{CH}_2-$または$-\text{CH}_2-$から選ばれる基、rは0または1~3の整数)、R₂は水素原子または炭素数1~4のアルキル基、R₃とR₄は異なってもよく、炭素数1~4のアルキル基、Xはハロゲン原子または水酸基、nは10以上の任意の数、xは0を含む任意の数、Mはビニル単量体。]と任意のポリアニオンポリマーとを反応させることを特徴とするポリイオンコンプレックスの製法。</p>